

ニアネットシェイプからの造形

DEDで肉盛りする前提であれば、ニアネットシェイプ（最終形状に近い寸法）の素材を使うことができます。

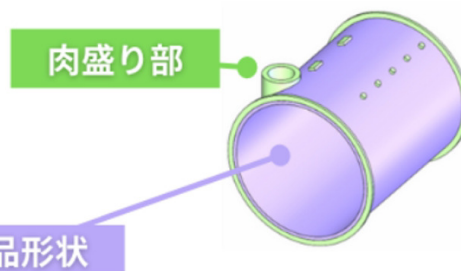
▼切削加工

製品形状の最外形で素材取り



▼DEDを活用

ニアネットシェイプ（最終形状に近い寸法）で素材取り



- ・ 切削加工の場合は、製品形状の最外形で素材取りしろ切削。
削りしろが多く、難削材の場合は特に切削時間が長くなります。素材コストも多く掛かります。
 - ・ DEDを活用する場合は、削りしろを最小限にした「ニアネットシェイプ」の素材を使い、肉盛りして製品形状に仕上げます。
- 必要箇所のみ造形・切削を行うことで納期短縮が可能。薄肉化により素材コストも抑えられます。

多品種少量生産の効率化

同じような部品の形状バリエーションが必要な場合に、その生産を効率化することができます。

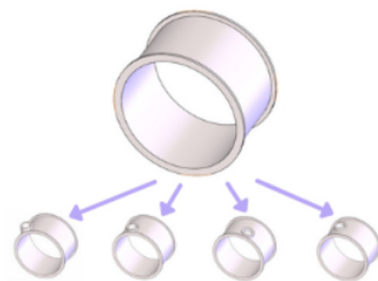
▼最終形状に合わせて鋳造型を製作する場合

それぞれの型が必要



▼DEDを活用

基本形状の型のみでOK



- ・ 最終形状に合わせて鋳造型を製作する工法の場合、形状の一部が異なるだけでもそれぞれの型が必要。
素材納期は長くなり、特殊形状の生産には対応しにくくなります。
 - ・ DEDを活用する場合は、基本形状をベースにそれぞれのフランジ部分を造形。
鋳造型は、必要最低限のみ用意すればOKです。
- 素材が単純形状であれば、納期短縮が可能。かつ、部品の形状バリエーションに対応しやすくなります。